カプリコン 4

真鍋譲治



カプリコン④

真鍋譲治

新書館

〈ストーリー〉
無限アンカーの発動で地球＝カプリコンはスラフレーゼの空に戻ってきた。ゾルバ軍の先陣を切る、遺伝子操作で作られた地球攻撃用ヤッピ族。彼らをとめようとするモーナと、黒魔竜になったタクは間に合うのか？　そして暴走を始めた無限アンカーは……？ 大胆に展開するＳＦ巨編、第四巻！



ISBN4-403-61222-9 C0079 P490E 新書館 定価490円(本体476円)

スラフレーゼの独裁者・ゾルバは、無限アンカーでカプリコンを同じ次元に引き戻し、二つの星を支配しようとしていた。アンカーの防人、ヤッピ族の少女モーナは地球から来たタマキとタクとともに、侵略計画を阻止しようとするが、結局アンカーは発動してしまう。その時の衝撃で消滅したタクは、思いもかけぬ形で復活する。モーナたちの目の前に現われたヤッピ族の守護神・黒魔竜としてよみがえったのだ！
意表をつくストーリー展開で読者をひきつける「カプリコン」、第四巻登場。



カプリコン④

1990年 3 月25日＊初版発行Ⓒ

著　者＊真鍋譲治(まなべじょうじ)
発行所＊株式会社新書館
東京都文京区千石1－21－7
☎(03)946-5331　営業(03)942-1161
FAX(03)946-5335　振替・東京4-53723
印　刷＊図書印刷

ISBN4-403-61222-9　定価490円(本体476円)
Printed in Japan





WINGS COMICS

カプリコン④

真鍋譲治

新書館



CAPRICORN

by JOHJI MANABE

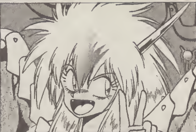
カプリコン④

真鍋譲治

■おもな登場人物■



島村卓
中学二年生。戦いの中で消滅してしまうが、黒魔竜の魂としてよみがえる。



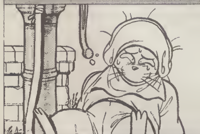
モーナ
ヤッピ族の数少ない生き残り。ガレッティ博士に育てられた。



ゾルバ
スラフレーゼの独裁者。破滅をよぶという無限アンカーを動かし続ける真意は？



島村環
高校一年生。弟のタクと共に地球で最も濃くヤッピの血をひいている。



ジル
ガレッティ博士の孫で、モーナとはよい遊び友だちだ。なぜか関西弁を話す！



モゲゲ
ガレッティ家の家族なのかペットなのか、存在自体が謎の鳥。ちょっと太め。

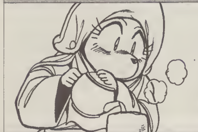
■おもな登場人物■



バルター
ゾルバの同志で、スラフレーゼ治安軍総司令官。モーナを助けたため投獄された。



ヨットル博士
酒で身をもちくずした科学者。ガレッティ博士の親友で、その遺志を継ぐ。



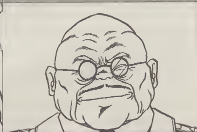
ノン
気立てのやさしい、ジルの姉。やんちゃなモーナたちの世話でいそがしい……。



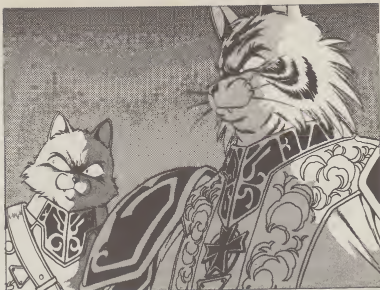
バーラム
隻眼の女盗賊。無限アンカーの秘密を探っている。獄中のバルターを救出する。



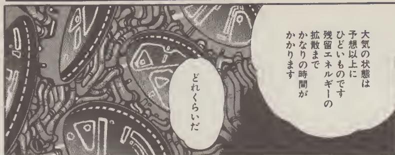
ポポ＆ドッペ
バーラム一家の子分。バーラムの手足となって働くが……ちょっとドジな二人組。



権藤大佐
ヤッピ族の組織、S・M・S極東支部司令官。判断ミスを悔やみ自殺する……。



ACT18 ロンリーアタック



無限アンカー発動　24時間後

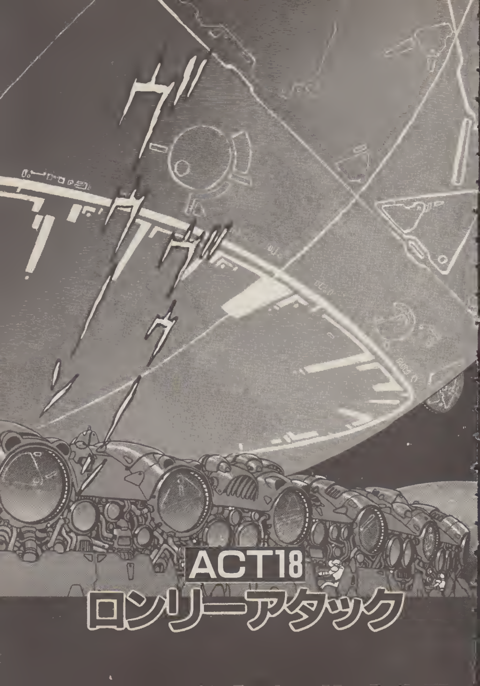
おそらく七日以上は…

そこまで待てん！計画どおりやれ!!

無限アンカーは今のところ安定しています！

破損箇所の修復は明日の朝までには……




ACT18
ロンリーアタック

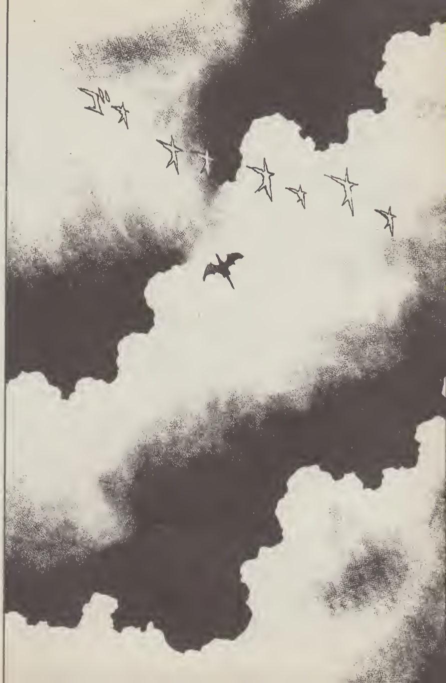
閣下 地上の被害 状況の 報告です
うむ
カッ
想像を 絶する被害です…… 都市によっては 全滅した所も あります……
これくらいなら 計算どおりだ 心配するな!
新しい社会が 始まる時には 破壊がつきものだ
破壊こそが 古い社会から 我々を解放して くれる!
その破壊からの 建設こそが 我々が必要として いるものだ
我々は無から スタートする! スラフレーゼ カプリコン 両惑星に またがる 新国家だ!!

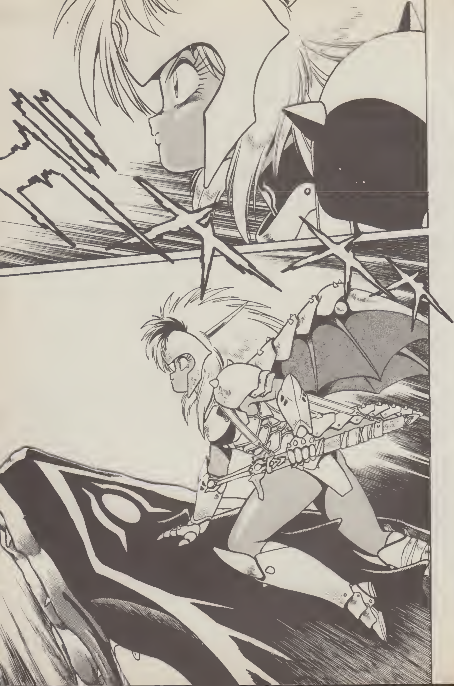

今までの
進歩も発展も
停滞した
スラフレーゼのような国
ではない！
まったく新しい
新国家を
わしは作る！


ゾルバ閣下
万歳——っ!!

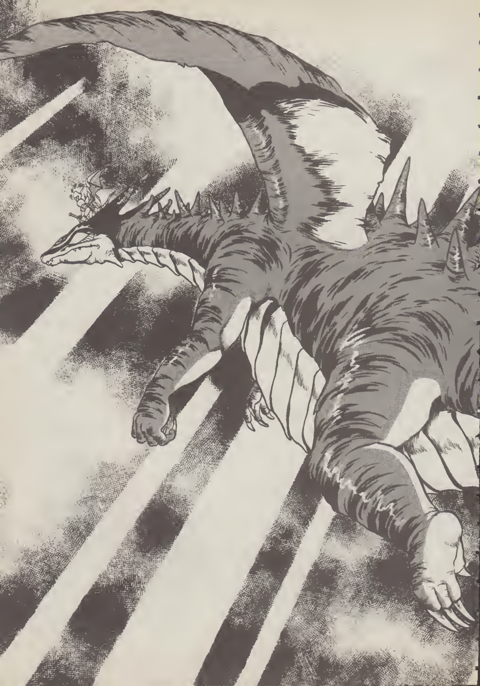

警報！
小型の飛行体
第一梯団に
急速接近中!!
なに!?
確認しろ
いそげ！


飛行体からの
エネルギー反応・
金属反応なし！
生命体と
思われます
艦隊との接触は……


ゴオオオオオオオ





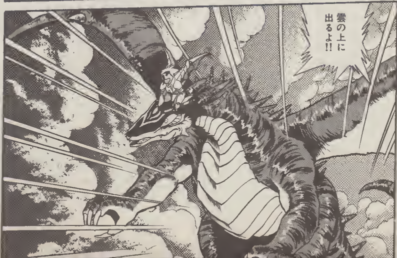


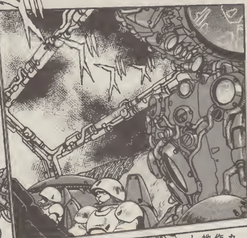

急いで タク！ 艦隊に 追いつか なくっちゃ
オーケー まかしとけって


その格好 なかなか イカスね 色っぽーい
やだもう！

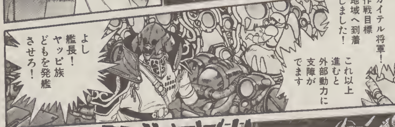

これはね 太古に ヤッピ族が 着てた 聖戦の甲冑さ
死を賭けて 戦う時にだけ 身につけるの！

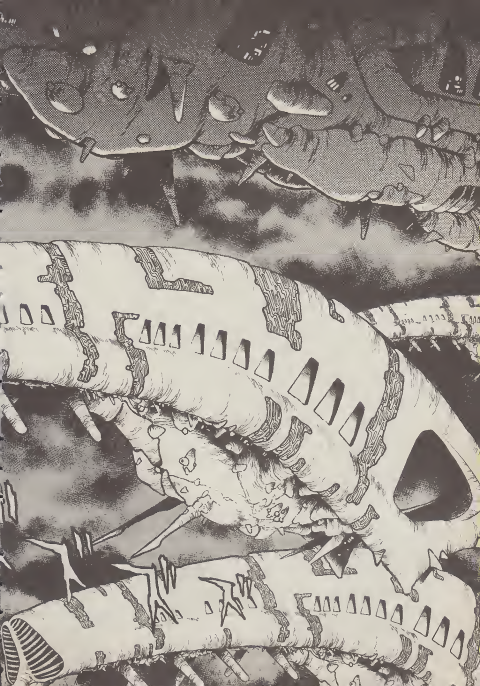

軍が 無限アンカーを うばおうとした時は 全ヤッピ族が これと同じ甲冑で 戦ったはずよ

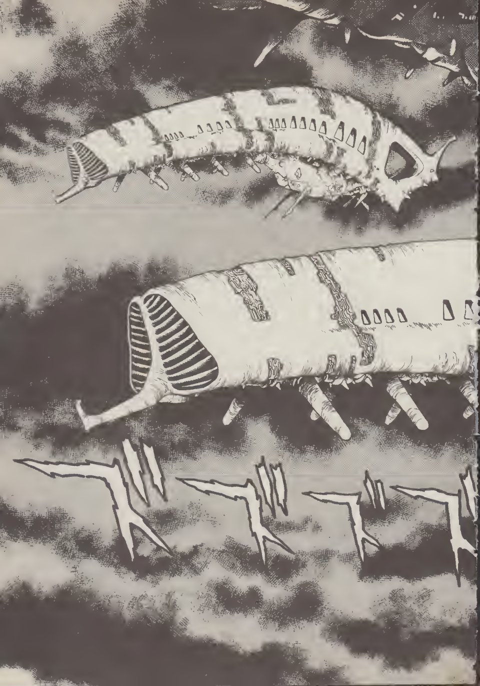

雲の上に 出るよ!!



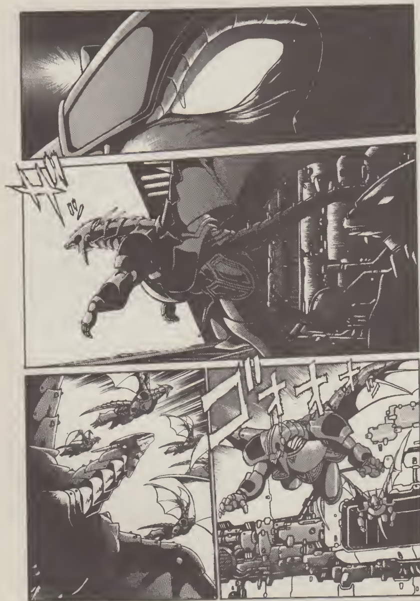

揺れるな
この気流の状態ではいたしかたありません将軍

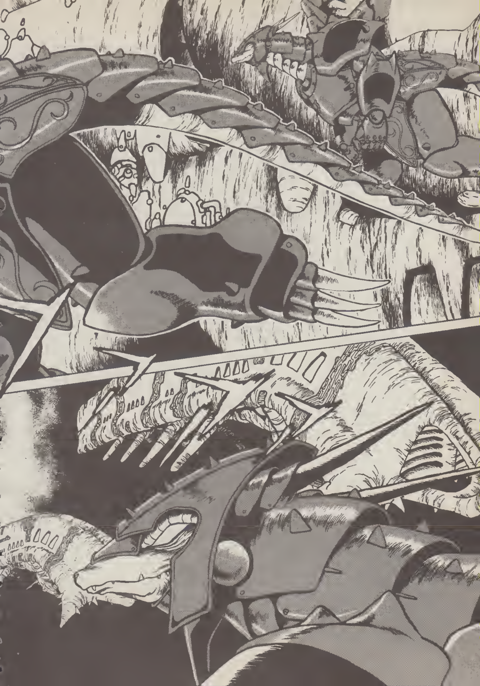

カイテル将軍！作戦目標地域へ到着しました！
これ以上進むと外部動力に支障がでます
よし艦長！ヤッピ族どもを発艦させろ！

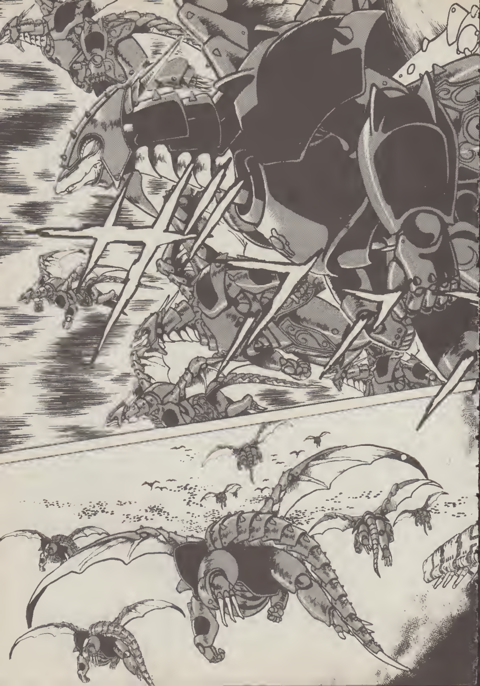


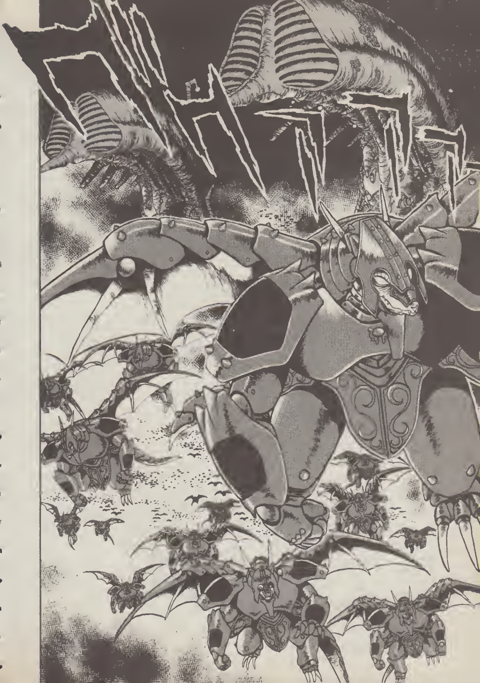

ズズズズ




ギッ
ゴォオオッ



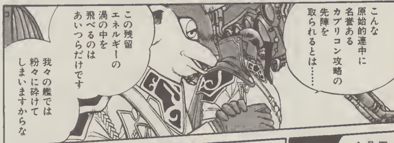




タク！あれ見て！ヤッピ族が!!
ちくしょう遅かったか!!
すごい数……
ちくしょーっ!!侵略のためにヤッピ族が使われるなんて…
タクもっと早く飛んでよ!!
けど追いついたところでどーやって引き返させるんだよ……
わかんない…
でもこのあいだの三人みたいにみんな心があるんなら説得してみせるもん！
タクもぜったい手を出しちゃだめだよ
う〜〜んけどなあ…

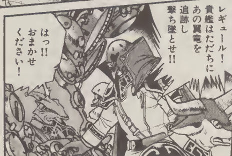

全部隊
発艦終了！
編隊を組み
予定コースを
直進中！

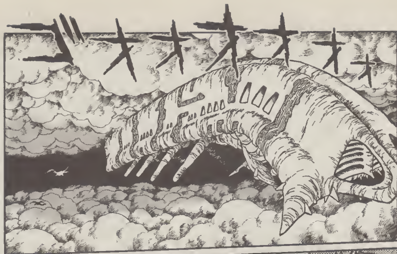

天駆ける
古代翼竜
部隊か……
しゃくだな
艦長


こんな
原始的連中に
名誉ある
カプリコン攻略の
先陣を
取られるとは……
この残留
エネルギーの
渦の中を
飛べるのは
あいつらだけです
我々の艦では
粉々に砕けて
しまいますからな

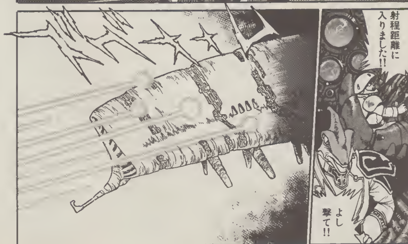

下から
見ているのとは
えらい違いだな
エネルギーが
拡散するまでは
どうにもならん……
艦長
後方より
高速飛行体
急速接近！
なに
確認しろ！
総司令部より入
電！〃未確認
飛行体の接近を
許すな！ 迎撃
せよ〃と…!!
全艦
戦闘配備!!


くそう
なんだ
あれは…!!
前方の
ヤッピ族に
向かって
いきます!!


レギュール！
貴艦はただちに
あの翼竜を
追跡し
撃ち墜とせ!!
はっ!!
おまかせ
ください！



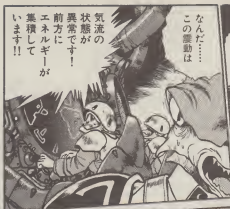

一隻追っかけてきた!
やべっ!

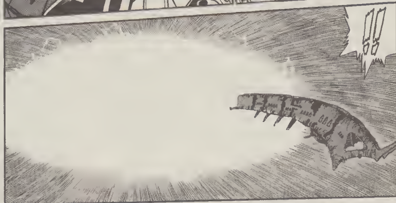

射程距離に入りました!!
よし撃て!!

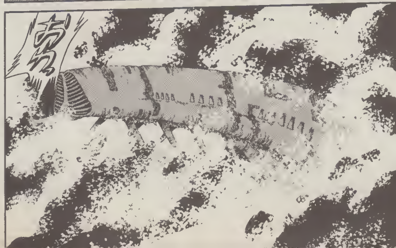
うわっ!!

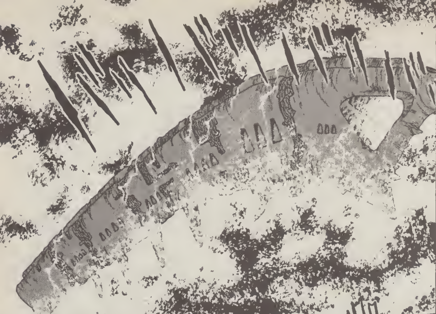



!?


なんだ……この震動は
気流の状態が異常です！前方にエネルギーが集積しています!!

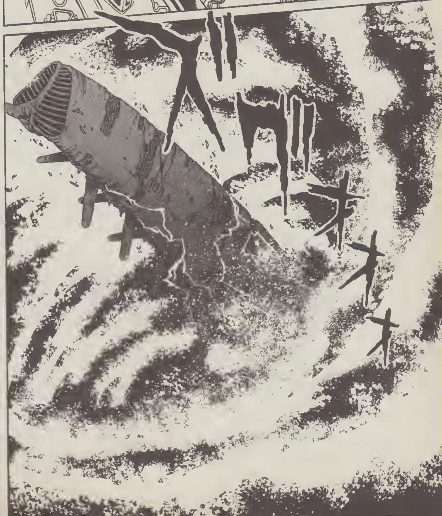

!!

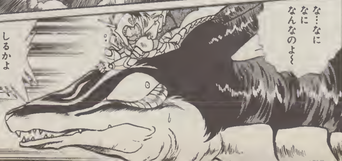



しまった!!
全速離脱!
だめです
コントロール不能!!
渦に引き込まれます——っ!!
機関反転
最大出力!!
カイテル司令!
カイテル司令!
緊急事態発生!!
脱出不能!!
救助を…!!

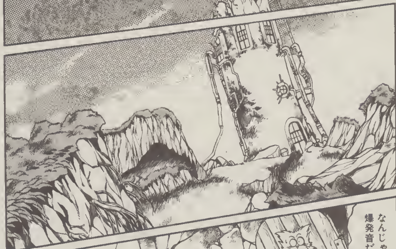
船がつぶれる!!
助けてくれ!!

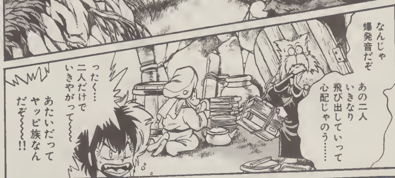
ぎゃあああ




な…なに なに なんなのよ～
しるかよ 勝手に 爆発 しやがった





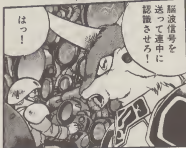

なんじゃ 爆発音だぞ
あの二人 いきなり 飛び出していって 心配じゃのう……
ったく… 二人だけで いきやがって〜〜
あたいだって ヤッピ族なん だぞ〜〜!!

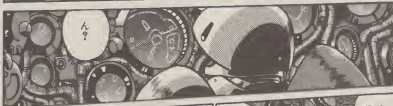

ま それにしても タクの奴 ずいぶん 行動的に なったわねー
お── この観測機は 無事じゃぞ

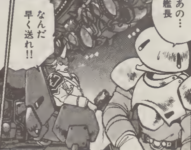

ねー あたしに合う ヤッピ族の よろいあった ──
なんや ぎょーさん あるわ 着てみ──


ゴゴ


これ以上の追跡は不可能だ　想像以上に残留エネルギーが強い……
奴の処分はヤッピ族にまかそう

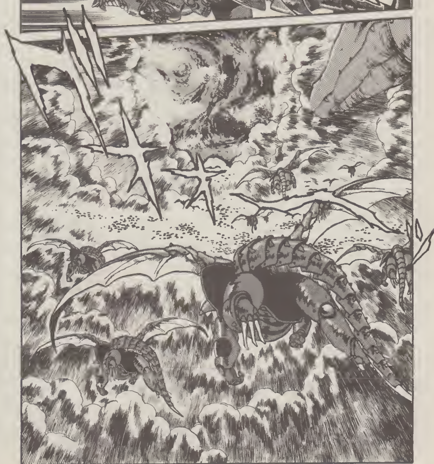

脳波信号を送って連中に認識させろ！
はっ！


ん？

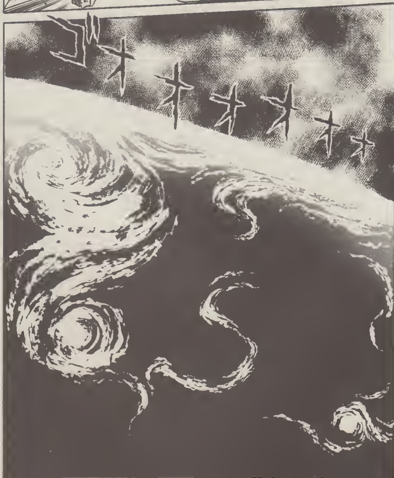

あの…艦長
なんだ早く送れ!!
それが妙なんです…


ヤッピ族の連中がお互い呼びかけあってるようで……
なに？意味わかるか？

それが
トール・ロキ・
ジウ・サス・
ナムなど
わけのわからん
ことばかりで
さっぱり……



地球だ！
だめだ もう まにあわない!!
みんな まって——っ!!
攻撃は やめて——っ!!




ACT19
バースト東京

敵大編隊
防衛空域に侵入！
無限アンカー上の
艦隊に合流するもよう……
飛行体は超密度有機体！
数は計測不能！

迎撃部隊は
各空域で
待機せよ!!

敵編隊は無限アンカー上空成層圏内で停止している大型艦の周辺に集結しています

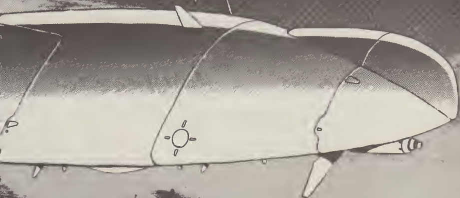
無限アンカー周辺への兵力の集中は正しかったな

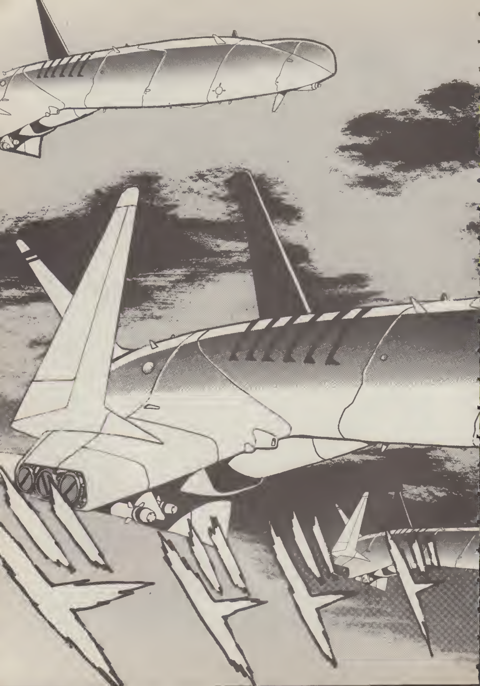
連中が分散する前に核攻撃をかける！亜空間迎撃機は今どこだ？

現在八丈島上空高度八三〇〇〇
接触まであと五分五十秒です





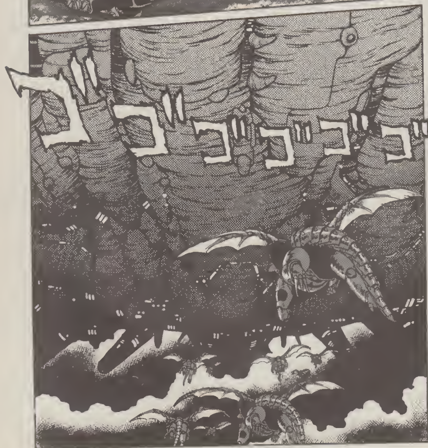

兵装モード
巡航ミサイル
桜花にセット
一撃加えたら
上にひねって
核爆発より
退避せよ!



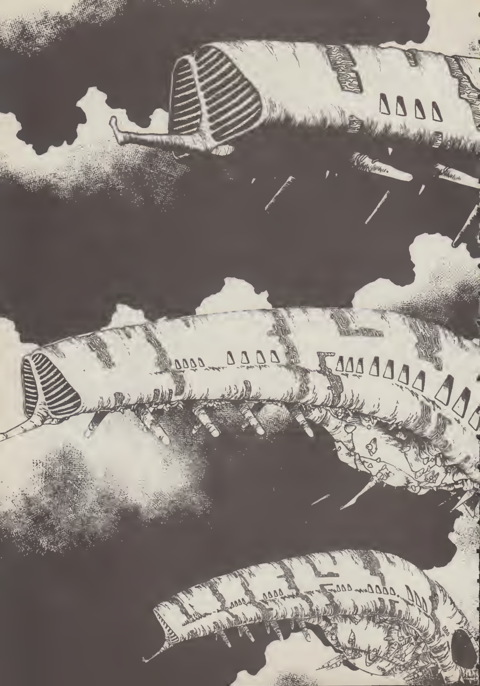


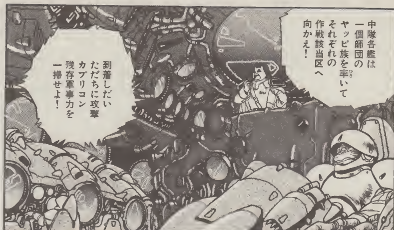
戦闘隊形散開!!

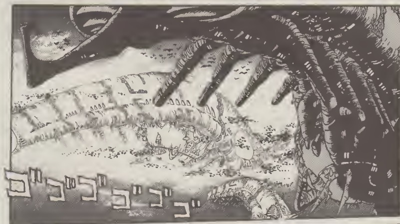
敵が成層圏内に
いるうちに
破壊するのだ!

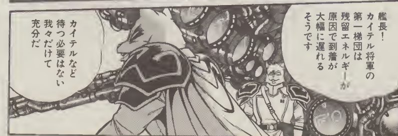







中隊各艦は一個師団のヤッピ族を率いてそれぞれの作戦該当区へ向かえ！
到着しだいただちに攻撃カプリコン残存軍事力を一掃せよ！


ゴゴゴゴゴゴ


艦長！カイテル将軍の第一梯団は残留エネルギーが原因で到着が大幅に遅れるそうです
カイテルなど待つ必要はない我々だけて充分だ

先ほどより
艦隊に接近中の
敵編隊は
いかがいたしま
しょうか

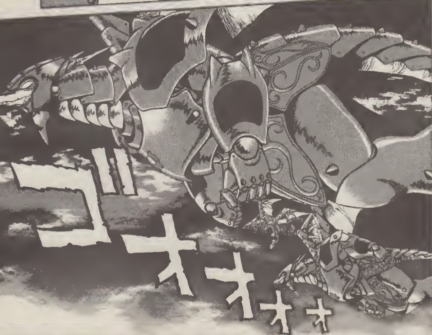
距離は

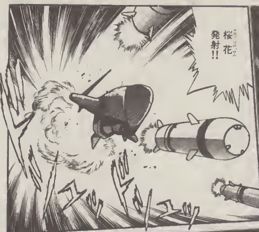
四八〇〇〇
散開して
います

まだ
カプリコンの
人間に抵抗力が
あるとはな

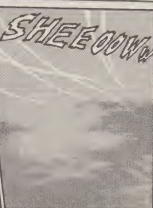
前衛に
破壊を命じろ！

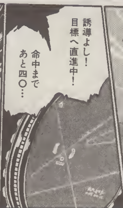
破壊せよ！
我々の計画を
妨害する可能性
のある者の
接近を許すな！




自動追尾システム復調！
射程内に入ります
桜花発射!!

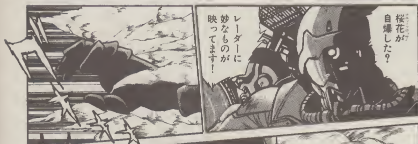



SHEEOOW


誘導よし！目標へ直進中！
命中まであと四〇…

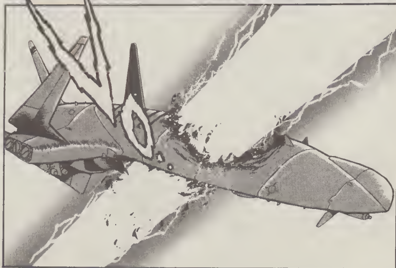



なっ…!!


桜花が自爆した?
レーダーに妙なものが映ってます!


な…
なんだ!?



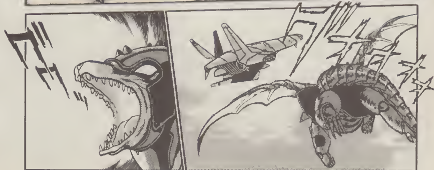





ドムドムドム



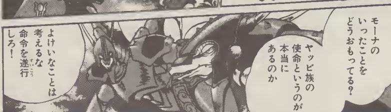




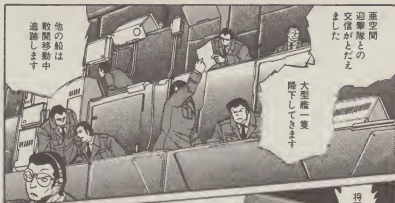



トール

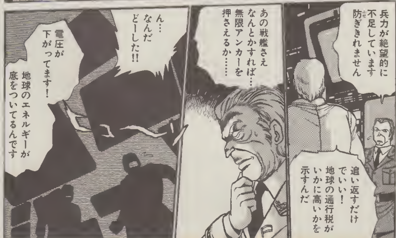

ロキ
ジウ

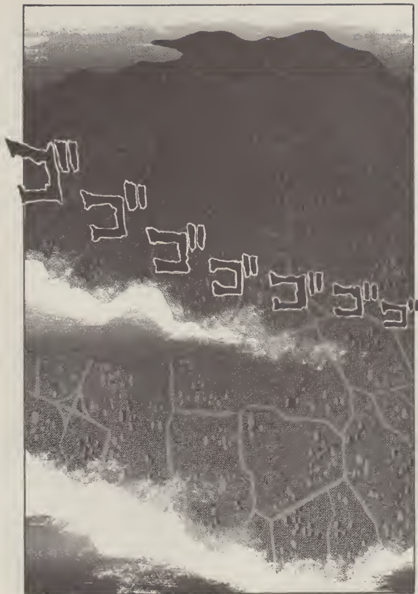

モーナのいったことをどうおもってる？
ヤッピ族の使命というのが本当にあるのか
よけいなことは考えるな命令を遂行しろ！

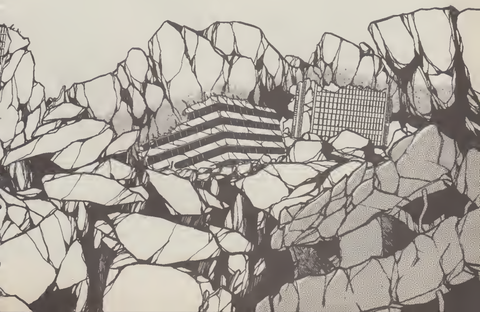

俺はモーナがウソをいってるとは思えん
俺もそう思うがじゃあ我々のやっていることはなんだ？
わからん〝命令〟だとしか……

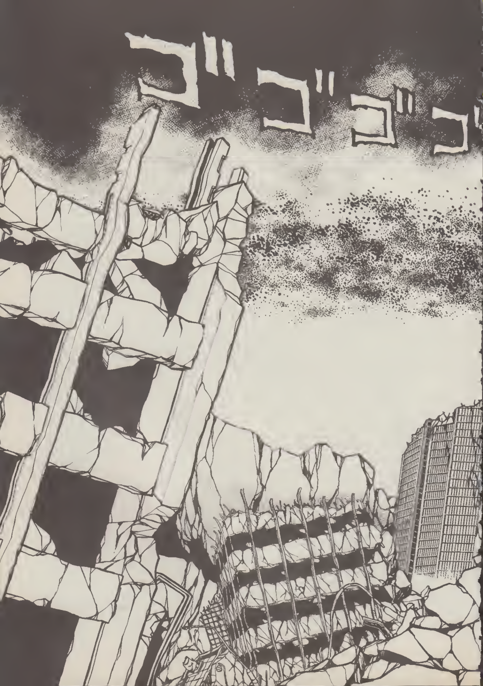

亜空間
迎撃隊との
交信がとだえ
ました
大型艦一隻
降下してきます
他の船は
散開移動中
追跡します


将軍!!
あわてるな!
今　組織的防
衛ができるのは
我々だけだぞ!
地上兵力を
展開しろ!

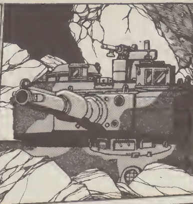

兵力が絶望的に
不足しています
防ぎきれません
追い返すだけ
でいい!
地球の通行税が
いかに高いかを
示すんだ
あの戦艦さえ
なんとかすれば…
無限アンカーを
押さえるか……
ん…
なんだ
どーした!!
電圧が
下がってます!
地球のエネルギーが
底をついてるんです

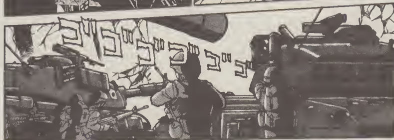

ゴゴゴゴゴゴゴ

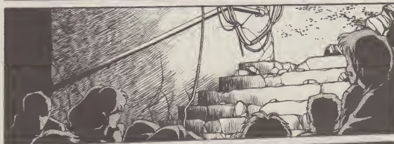

ゴゴゴゴゴ


ゴゴゴ



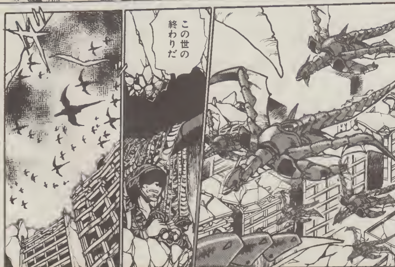


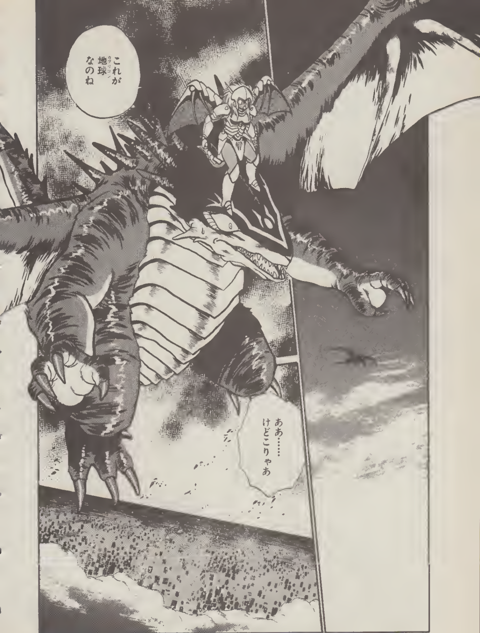

ゴゴゴゴゴゴ





ゴオオオオオ

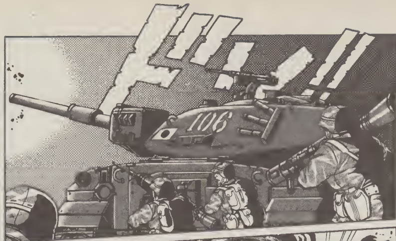


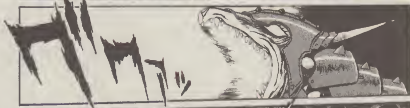
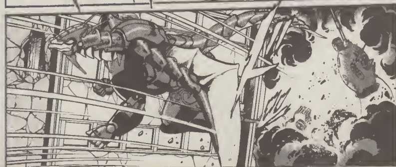

これが地球(カプリコン)なのね
ああ……けどこりゃあ

ドドドドドド






106

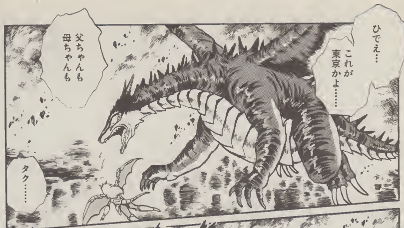





ドドドドド



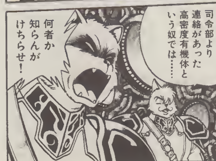



ひでぇ…
これが
東京かよ……
父ちゃんも
母ちゃんも
タク……


ゴオォォォォォォ

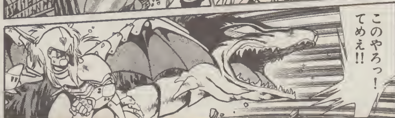

ちくしょう!!

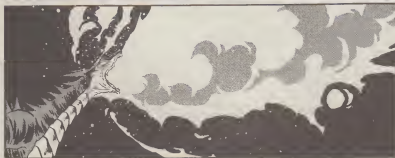

おいっ
なんだ
あれは!!
ヤッピ族
なのか
あれは?


司令部より
連絡があった
高密度有機体と
いう奴では……
何者か
知らんが
けちらせ!

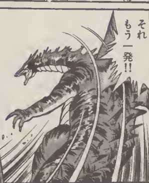
!!

うわっ



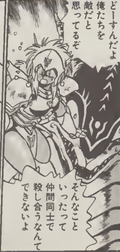


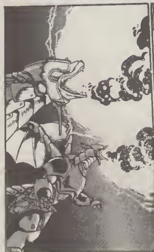



それ
もう一発!!

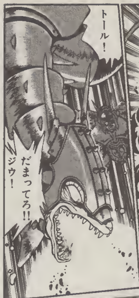

まって
タク!
ブッ



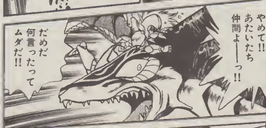

どーすんだよ
俺たちを
敵だと
思ってるぞ
そんなこと
いったって
仲間同士で
殺し合うなんて
できないよ

トール！
ロキ！
ジウ！
どこに
いるのー
返事して



うわっ!!


トール!
だまってろ!!
ジウ!




やめて!!
あたいたち
仲間よ――っ!!
だめだ
何言ったって
ムダだ!!






なぜだ
トール
俺たちは
あの二人を
倒さねば
ならんのか?
モーナは
俺たちに
名前を
くれたぞ
だが命令を
受けた


俺たちは
その命令に
従わねば
ならん…!
ゲホッ

トールっ！
ロキーっ！
ジウーっ!!

ムダだって
あいつらヤッピ族の
姿をしてるだけで
しょせんゾルバの
手下さ

どうして
俺たちは
命令を
聞かなきゃ
ならんのだ

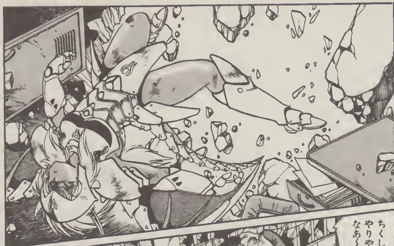
俺には
モーナを殺す
理由がない

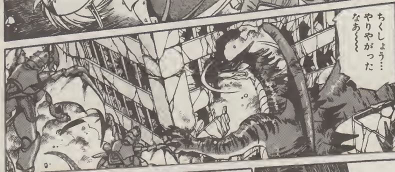
ジウ!!

そんなこと
ないって!!

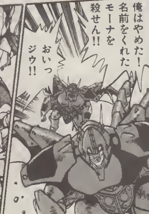
ヤッピ族の血が
流れてる限り
みんな
仲間だよ!!

わっ



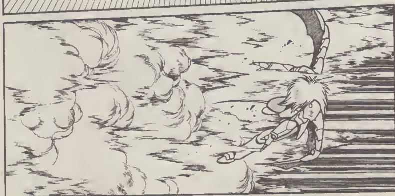

ちくしょう…
やりやがったなあ〜〜

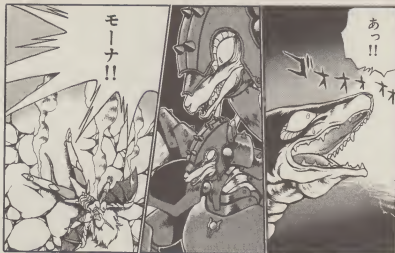

もう
がまん
できねえ


俺はやめた！
名前をくれた
モーナを
殺せん!!
おいっ
ジウ!!

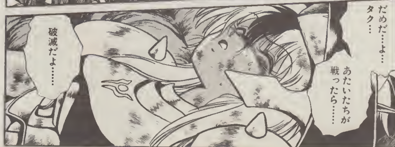

あ……

バカ！もどれ!!
ジウ！
ハァァァァッ
ジウ!!
まってタク!!




あっ!!
ゴォオオオオオ
モーナ!!


ど…どうして
こんな
ことを……
俺が一瞬
力抜かなかったら
灰になってたんだぞ!!
モーナ!!


だめだ…よ…
タク…
あたいたちが
戦ったら……
破滅だよ……

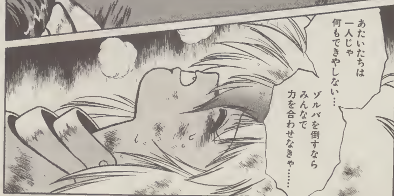
ACT20
ドロップアウト



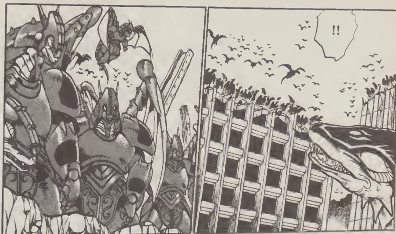
ぜったい戦っちゃだめ……

トールたちを信じて……

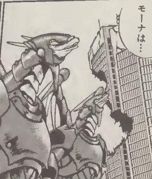
モーナ……

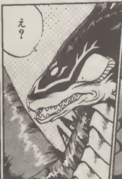



お願い…
わかったよ……
ごめんよ
俺って短気
だから……
ズバッ!!

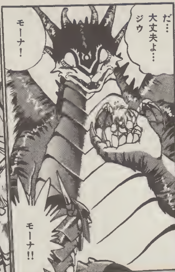

!!

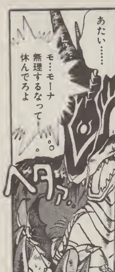

な…なんだあ——
やばそうじゃん


モーナは…


え？


モーナは無事か…？


だ…
大丈夫よ…
ジウ
モーナ！
モーナ!!

はは……
ちょっと
まいったけど…
でも平気だよ
だってあたい
ヤッピ族だもん……

あたい……
モ…モーナ
無理するなって…
休んでろよ
ヘタァ…

けど……
ゾルバたちが
すぐに……
それに
カプリコンが
……

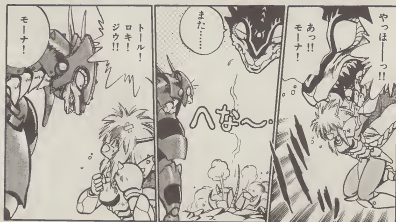
トール！
うむ……

ロキ！
おう！

安心しな
モーナ！
俺たちが
そいつを
引きうける


え？
俺たちは
何が正しいのか
まだわからん
だが〝命令〟よりは
同じヤッピ族の
モーナを信じる
ヤッピ族の血が
そういって
いるんだ


タク！
モーナ！
やったぞ!!

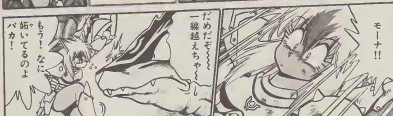

やっほ——っ!!
あっ!!
モーナ！
また……
へな〜
トール！
ロキ！
ジウ!!
モーナ！

ありがとう!!

あーーっ!!

スリスリ

……





俺たちには
ヤッピ族の記憶はない！
だが俺たちには
ヤッピ族の血が
流れているだろ！

同じ血が流れてる
モーナとタクの
二人が
ヤッピ族の正当な
使命を
守っているのなら

俺たちは
その血の導きに
従うべきだぞ!!

そして今
俺たちの血は
モーナたちとともに
戦えといっている

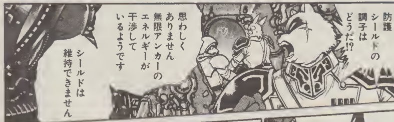
みんな
どうだ!?

血に従うか!!


ズ
ズ
ズズ
ズ


くそうっ!!


損害箇所の修復はまだか!!
ほぼ完了しました戦闘・航行に支障ありません

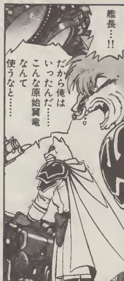

防護シールドの調子はどうだ!?
思わしくありません無限アンカーのエネルギーが干渉しているようです
シールドは維持できません


なんとかしろ!
シールドが張れねば裸同然だぞ!!
はっ


艦長ヤッピ族のようすが変です攻撃をやめ集合しています!
なにいっ!?

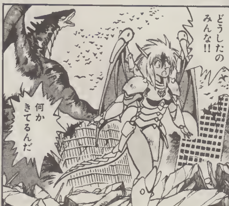

しかもその中にさっきの黒竜が……!!


強制指令波を
送れ!!
攻撃を
続行!
手始めにその
黒竜を
ぶち殺せーっ!!


だめです!
反応がありません!
ヤッピ族は
だれひとり
こっちの指令波を
受けつけ
ません!!
艦長…!!
だから俺は
いったんだ……
こんな原始翼竜
なんて
使うなと……

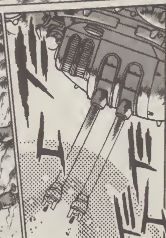

命令に
従わねば
〝死〟だ!!

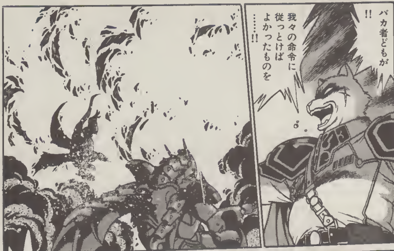

!!

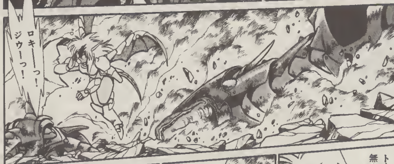

ど……
どうしたの
みんな!!
何か
きてるんだ



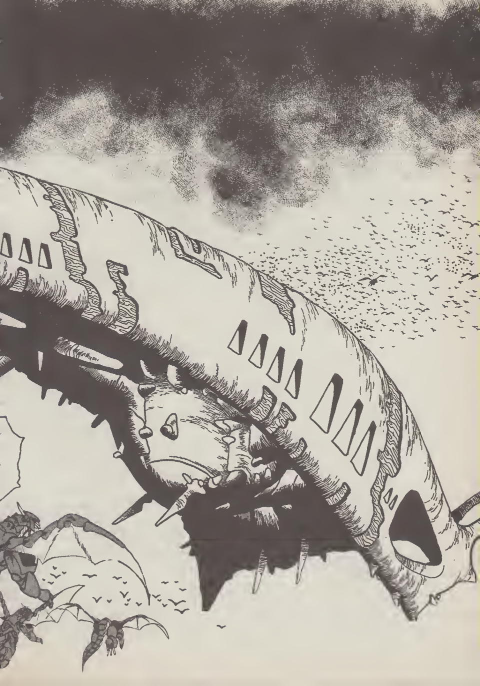



ちくしょう
なんてこと
しやがんだ!!


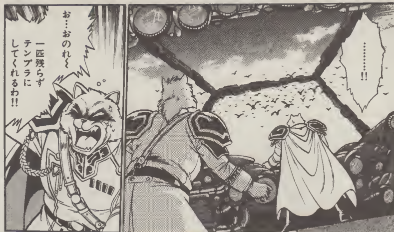


バカ者どもが!!
我々の命令に従っとけばよかったものを……!!

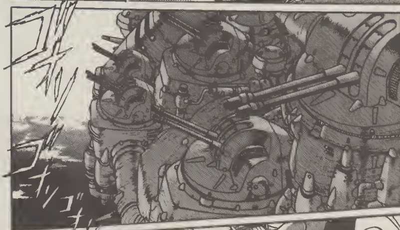

ロキーっ! ジウーっ!

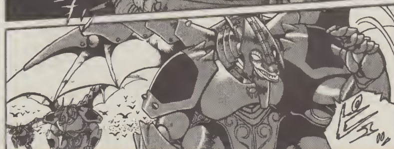

トーール! 無事なのーっ!!
モーナ あれを見ろよ!!
艦長! 無数のヤッピ族が……!!
焼け死んだろうな!



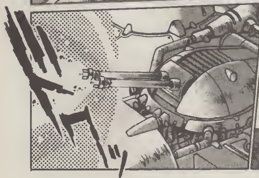
か…
囲まれてます…
何千いや…何万と…
ぎょっ!!


…………!!
お…おのれ～
一匹残らず
テンプラに
してくれるわ!!


ゴォォ
ゴオッゴオッ

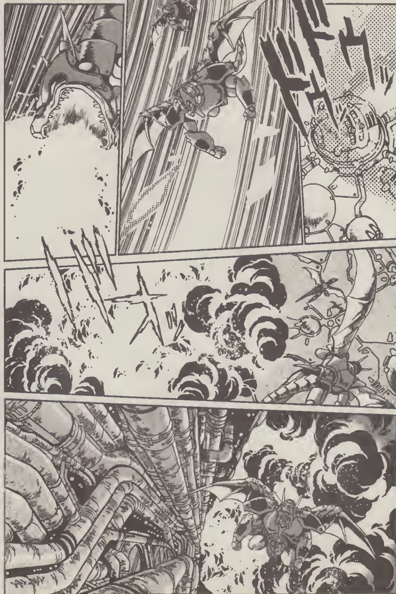


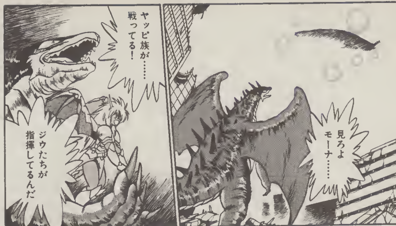


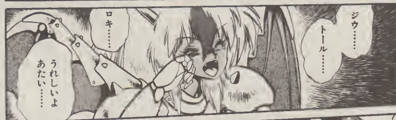


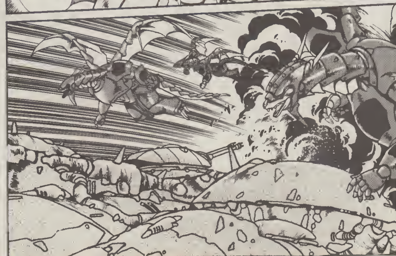

砲擊開始!!

DOM DOM DOM DOM


ドドウッ


見ろよ
モーナ……
ヤッピ族が……
戦ってる!
ジウたちが
指揮してるんだ


ジウ……
トール……
ロキ……
うれしいよ
あたい……



ぐわっ!!


か…数が多すぎます！
三番砲台全滅！
左舷第七タンクに直撃!!
中隊全艦を呼びもどせ!!
だ…だめです どの艦とも交信不能…!!
なにいっ!?


ま…まさか全ヤッピ族が……!?
わっ！
艦隊司令部に緊急通信！
非常事態発生!!



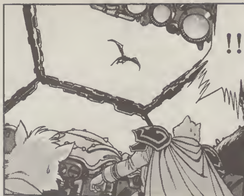




左一番機
停止!
推力低下80
バランス
回復
しません
左に舵を
取られます
全力射撃!
連中を
近づけるな!!



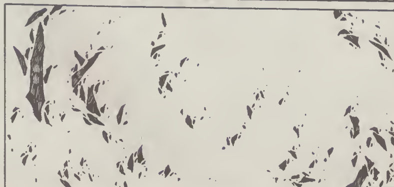



!!

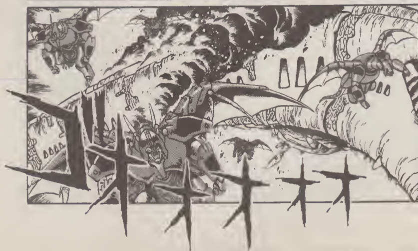

か……
艦長!!
!!




う……うわあっ




戦艦から
離れろ!!

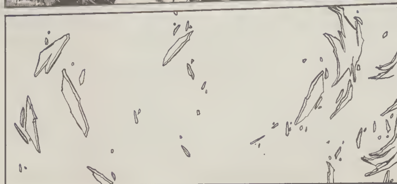


こちら艦隊司令部！
クルーゲ艦長どうぞ！
どうした何があったのだ応答せよ！




ズワァァッ

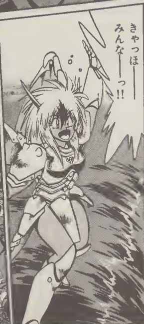

ぶわっ!!

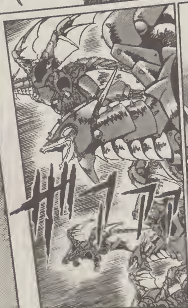



敵戦艦が一隻
板橋区に
墜落！
爆発しました!!

モーナ!

やったぞ!!






なにい?
クルーゲの
先発隊からの
通信が
とだえただと?


はっ
緊急通信を
最後に……
各地に
散開していた
中隊各艦とも
連絡が
取れません
残留エネルギーの
影響では
ないのか?
それが
最後の通信の
内容によると……
〃ヤッピ族の
コントロールを
失った〃
〃攻撃を
受けている〃
と……


まさか
ヤッピ族が
……?
やはり
制御チップを
うめこむべき
だったんだ!
無理だな
やつらの
精神には
手を出せん!
戦闘能力を
失いかねん
からな
…………

あのヤッピの
小娘どもの
仕業(しわざ)か……



ふん
まあよい……

原始翼竜どもが
どう
あがこうとも
わしの計画を
はばむことはできん!

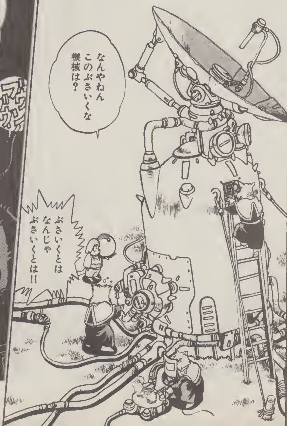
わしに逆らった
罪の重さが
すぐに
身にこたえるように
なる……!!

カイテルに
命令を出せ!

あらゆる困難を
排除し
カプリコンへ
進撃せよ!!

スケジュールの
遅れは
許されんとな!!

モゲ〜



見かけは
悪いが
こいつは惑星間
通信機じゃぞ

カプリコンの
人間と連絡
とるにはなくては
ならん機械じゃぞ!!

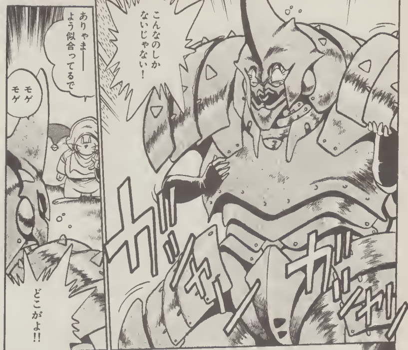
むこう（カプリコン）の
人間と？


ふたつの星の住民が協力せん限りゾルバを阻止できんからな
モーナたちにも連絡取らねばならんしのう
そーいやあの二人どーしたんやろ
はーいみなさんごはんですよ


わーうまそー
それじゃごちそうになろーかの
はて飯なんか食っとる場合じゃないんではないか?


アホ！まず腹ごしらえじゃいつ次に飯が食えるかはわからんぞ
そーじゃそーじゃ
うん?

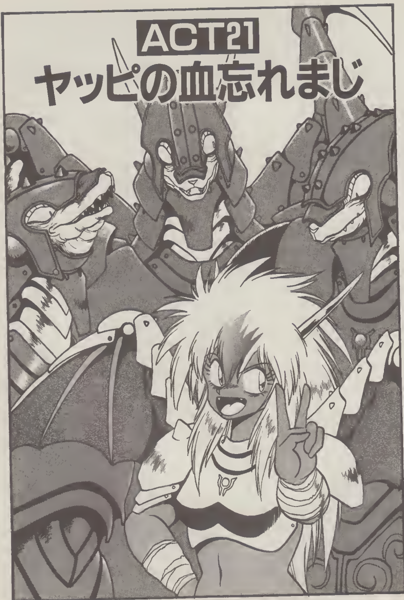

なによーこれ!!

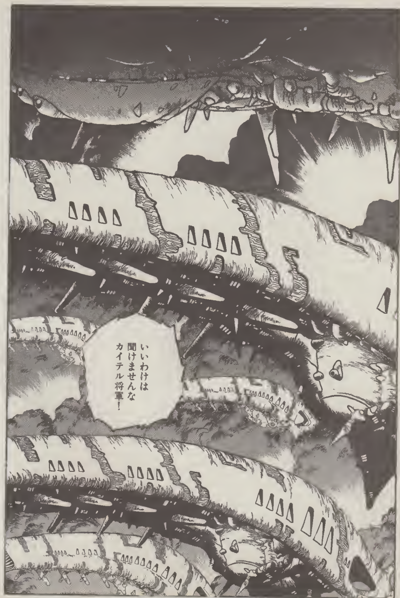


モーナたちの
ヤッピ族への説得により
ゾルバの野望の
一角が崩れた……

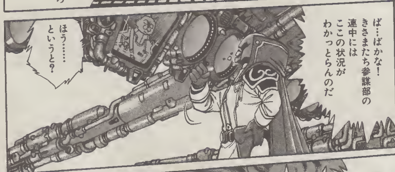
だが それはゾルバにとって
ほんのほんの小さな
一角にすぎなかったのだ……

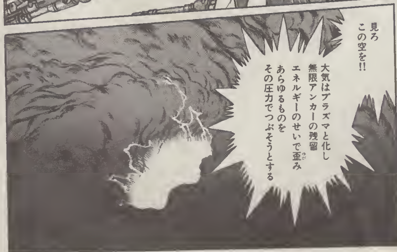
あたしも
羽が
ほしいわよ!!


ACT21
ヤッピの血忘れまじ


いいわけは
聞けませんな
カイテル将軍！


すでに予定より
大幅な遅れが
生じてます
ゾルバ閣下も
その遅れの原因を
排除せよと
指示なされた
わたしの見たところ
原因は指揮官の
戦意の欠如と
思われますな


ば…ばかな!
きさまたち参謀部の
連中には
ここの状況が
わかっとらんのだ
ほう……
というと?


見ろ
この空を!!
大気はプラズマと化し
無限アンカーの残留
エネルギーのせいで歪み
あらゆるものを
その圧力でつぶそうとする

現に
わが艦隊の一隻が渦に
まかれて
破壊された！

このようなことは
シミュレーション時
には考慮にも
いれてないでは
ないか！

最高司令部は
このような状況を
想定していた
のか！
どうだ!?

では将軍は
我々
最高司令部に
責任が
あると
いうのですかな

当然だ！
司令部は
無限アンカーの
エネルギーを
過小評価してたの
だろう!!

それが
引き起こす
事態も考慮に
いれてない！

それで我々に
前進を命じる
など
もってのほかだ!!

それは
最高司令官
ゾルバ卿への
批判とも
とれますな……

う…
いや
それは……

わたしは
ただ…

ゼップ艦長

はっ

貴官を艦隊司令官に任命する!

ただちに任務を引き継ぎ作戦を継続せよ!

はっ感謝の極みであります

ゼップ!きさま…!!

なおカイテル前司令官は身柄拘束の上ゼップ新司令官の権限により粛清せよ

な…!!

ギャキ

きさまの上官はわしだぞ!!

さらにその上官はゾルパ閣下です

外に放り出せ!

じゃあ
みーんな
自分で名前を
つけたんだ

ああ
艦に帰って
みんなに話したら
他の連中も
名前がほしいって
ことでな

それで
みんな自分の
好きな名前を
考えたのさ

へーーー
よかったじゃない
名無しのゴンベエ
さんじゃ
困るもん

じゃあ
みんな
自己紹介
してよ

なんだ
じこしょーかい

名前を
いうんだよ
バカ!

あ…
俺
ターラ!

俺
ザイス

カルラ

ワーム!

俺
ドンドン!

ミアン

オサル

カーム

イングだ
よろしく!

俺
カムジ

ムンダ

マサヒコ

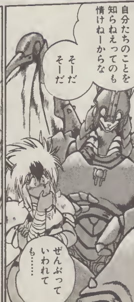
ソル

わーーっ
ちょっと
まってよ
一遍にいっちゃ
わかんないよ!!

こりゃ
朝まで
かかっちゃうな〜〜〜
みんなが
ヤッピ族の使命に
目ざめたのも
そのおかげ
かもな
え？
戦うことしか
知らなかったみんなが
初めて自分のことを
考えたんだよ
自分に
ふさわしい名前ってね
それだけのことで
集団催眠みたいなのが
効かなくなったんだ
大手柄だぜ
モーナ
やだな〜〜〜
そんな
すごいこと
したなんて
てれちゃう
じゃない
…………
どったの
タク
なんか暗いよ
え…
そ…そうか
いやちょっと
眠いんだよ



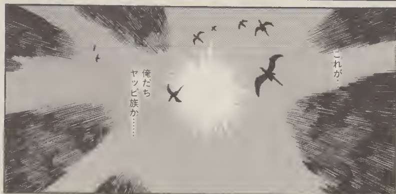




よーし じゃあ みんな 目をとじて！
気分を楽にしてね
へ？
目を とじると どーなるんだ？
見えなく なる
アホ！



これが…



仲間…
友…
これは…
家族…？
自由…
みんな
それぞれの生活が
ある…
そして
戦い…

これがヤッピ族なんだ……!!

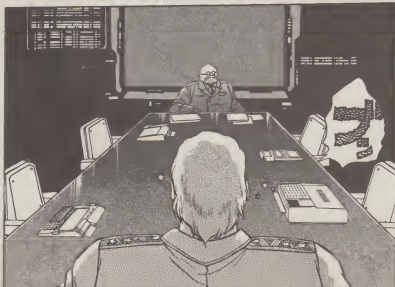
ふう……

どう?

少しはヤッピ族のことわかった?

感謝するぜ…モーナ
え？
このかよわい体を張ってよくヤッピ族を守ってきてくれたな
きゃっ！
だがこれからは俺たちにまかせとけ
たとえ造られたとはいえ
俺たちはモーナと同じヤッピ族だ
ヤッピ族だ!!

なんで この緊急時に 会議などするのだ
わしは ここの 司令官だぞ
しかし 最高司令部からの 呼び出しですので
…ったく 戦局が 変わりつつある 今が 反撃のチャンス なのに……
はあ…
こちらです 閣下!
ブツブツ



ひさしぶりですな
ドグレンコ将軍

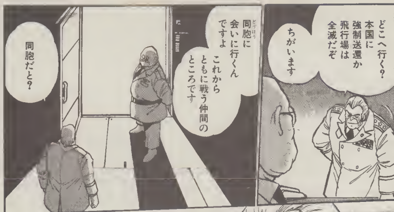
わたしが
留守のあいだ
極東司令官
代理ごくろうでした



ああでも
しなければ
あなたは
わたしを撃ってでも
指揮権を
得ようと
したでしょうからな
……

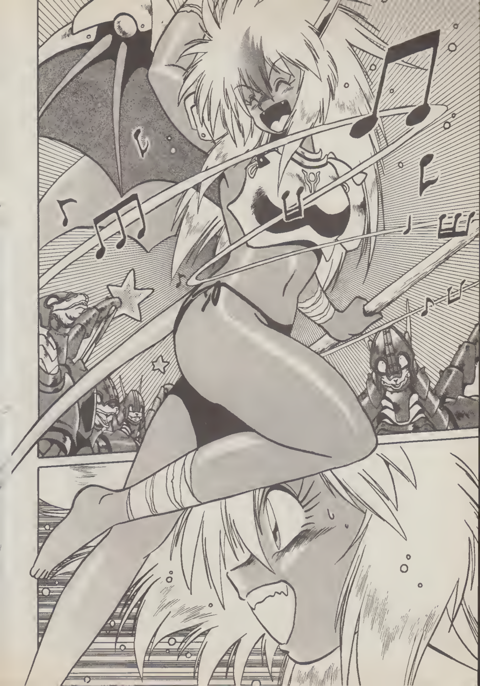
あなたに
戦闘の指揮は
おまかせして
わたしは
全世界の
ヤッピ族との
連絡に忙殺されて
いたしだいで……

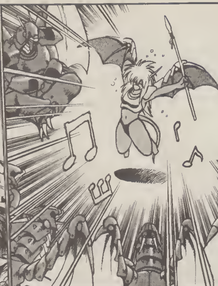
軍のトップの中にはあなたのような強硬派がいまして説得に苦労しましたよ
…………
あっそれからミサイルの発射命令も撤回させました
ふ…
がはははは
何がおかしいのですか
これが笑わずにいられるか
このわしともあろうものが猿芝居にはめられ
いい気になってるうちに指揮権も基盤をもなくしてたとは……
これは喜劇だよ
さてこのわたしをどうするかね強硬派は排除するかね
いえ
あなたもご同行願いますよ
今をのがすわけには行きませんからな


どこへ行く？
本国に
強制送還か
飛行場は
全滅だぞ
ちがいます
同胞に
会いに行くん
ですよ
これから
ともに戦う仲間の
ところです
同胞だと？



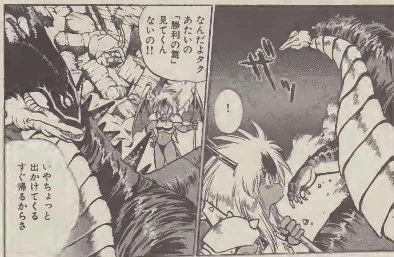






……


ヒュウウウ



ちょっ…ちょっとタク――っ!!

なんか
さっきから
様子が変だぜ

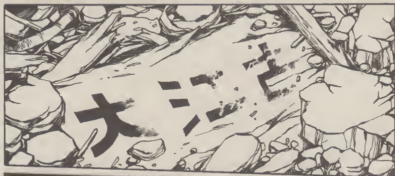
考えごとでも
してるのかな

タク……


練馬区はどこだよ……
俺 東京を空から見たことないしな〜〜
あ あの ぶっ倒れてるのサンシャインかな


じゃあ あれが目白通りで……
あれが千川通り…ってことは大江古田はこの先だよな






ここが…大江古田…?
そんな…


父ちゃん 母ちゃん!
俺だよ タクだ!! 帰ってきたんだよ




う…
うううう


…………

タク…


タク……

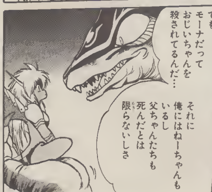

モーナ!!


み…
見るなよ…
ごめんタク…


え?
…
あたいったら
タクの気持も
考えずに
あんなに
はしゃいじゃって
……


タクは
この町を見て
つらい思い
してたのに…
ゴメン


い…いや
いいんだって
気にしてないよ
そりゃ
こんな東京
みたら
つらいけどさ


でも
モーナだって
おじいちゃんを
殺されてるんだ…
それに
俺にはねーちゃんも
いるし
父ちゃんたちも
死んだとは
限らないしさ

けど この格好じゃ 会えても 腰ぬかしちゃう だろーな

うぅ〜〜ん そーね〜〜

なあモーナ 俺って このままずっと 黒魔竜として 暮らさなきゃ ならないのかな

わかんない…… 黒魔竜の体に タクが乗り 移っちゃったのかも わかんないもん……

やっぱり その体 いや？

いやじゃ ないけど… 俺一度 死んじまった よーなもんだし…

ただ この姿じゃ もう地球には 帰れないよ

そのときは スラフレーゼで 暮らせば いいよ!

タクは仲間 なんだし あたいの大事な 人なんだから

けど… やっぱり この姿じゃあさ……

モーナたちと サイズ 合わないよ……

大丈夫もどれるよ
もとのタクにさ

ほ…本当か

そう信じなよ

逆に
黒魔竜が
タクに乗り移ってる
ってことも
考えられるじゃない

そ…そっかー

そーいうことも
考えられるよな

けどさ…
タク……

タクは
人間の姿に
もどったら……

こっち（カプリコン）に
帰っちゃうん
でしょ……

あ…

そーだと
さみしく
なるなー

………

だ…大丈夫さ
お互いすぐ近くに
ある星だし
そのうち
船で行き来
できるさ

いつでも
会えるよ

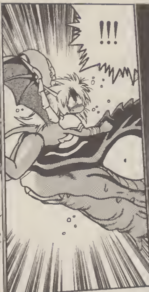
エへ♡
そうよね

きっと……

タクは
あたいの
一番大事な
人なんだもーん♡

俺だって





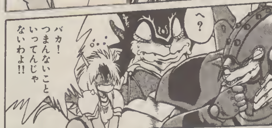
あら
何やってんだ?

え…いや
これはさ……

やだ
なんでもないのよ

ははーん
なるほど
二人でしめし
あわせて
出ていったんだな

二人っきりに
なるために



あ…
それどころ
じゃねえ
カプリコンの
乗り物がすぐ
そこまで
きてる!

乗りもの?
数は?



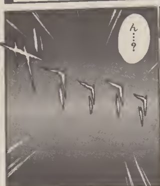


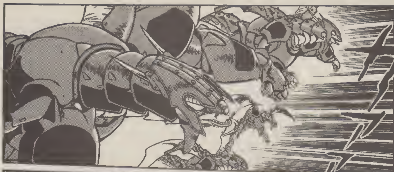
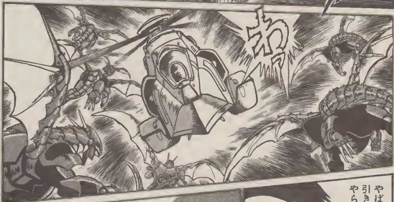
向こうの
ヤッピ族と
会うだと!!

大佐
気は確かか!!
やつらさっきまで
暴れ回って
たんだぞ!!
だが
敵の母艦を
破壊した

結局
何考えてるか
わからんって
ことだぞ!!
しかも
なんで
わしまで
同席せねば
ならんのだ!!
あなたも
彼らに会えば
わかりますよ

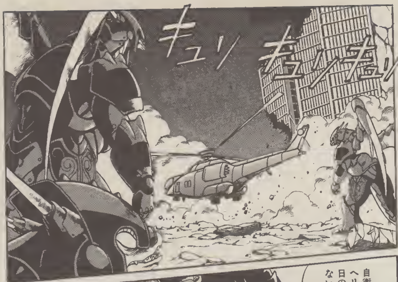
あいかわらず
連中を信じてるのか
向こうに送られた
二人のヤッピ族を
……
同じ
ディフェンダー
ですからね

そりゃまあ
そうだが……

ん…?

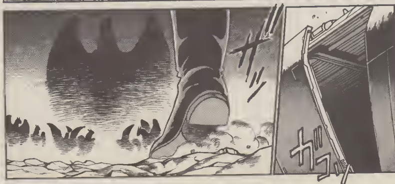

ザザザァァァ

わァ

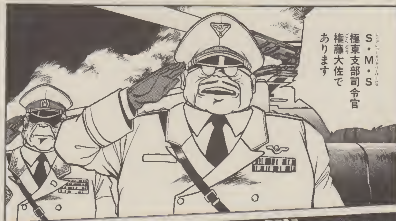
やばい
引き返せ!!
やられるぞ!!
誘導
してるん
ですよ
きっと

大佐!
君は少し
楽天家
すぎるぞ!!

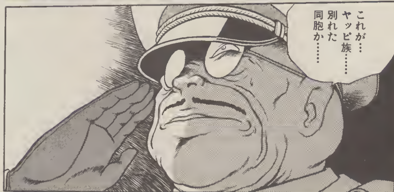

キュリ
キュリキュリ


自衛隊のヘリじゃないよ日の丸ついてないしさ
なんの用かしら
おいみんな手出すんじゃないぞ!!


ザッ
ガコッ


S・M・S
極東支部司令官
権藤大佐で
あります




これが…
ヤッピ族……
別れた
同胞か……

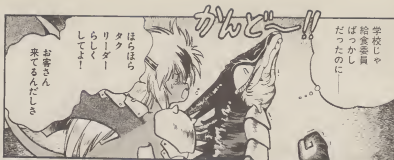
ACT22
リーダー・タク



リーダーは
どなたでしょうか？
ぜひお話ししたい
ことがあります



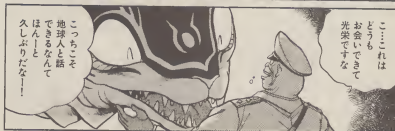
リーダーに会いたいだと？
おお しゃべったぞ!!
はい ぜひとも！ お願いします
タク モーナ あんたたちに会いたいとさ
え？
俺とモーナがリーダーってこと？
もちろん
二人ともヤッピ族のリーダーにふさわしいぜ
たのむぜ リーダー!!
うわーっ 聞いたかよ モーナ！ 俺たちがリーダーだってさ
ガッツ!!
がんばらなくっちゃね



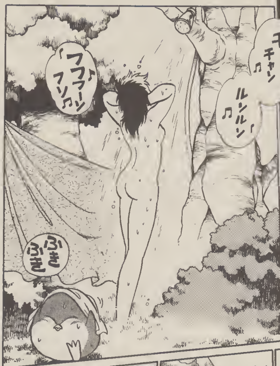
やあ!俺リーダーのタクですよろしく!!

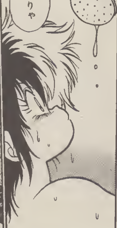
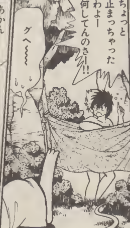
あたいモーナ!!

うわっ!!



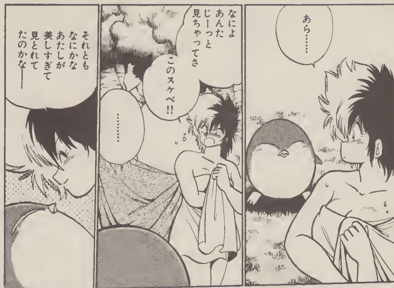
…というと
君はもしかして……
島村卓君
かね…？
へ？
姉の環君と
ともに
スラフレーゼに
送られた……
ディフェンダーの
姉弟だね!!
し…しかし大佐…
彼はどう見たって
地球人では
ないぞ！
な なんで
知ってんの？
あんた
何者？
おおっ
やはり!!
みなさい
将軍
彼らだ!!
我々は
君と同じ
地球の
ディフェンダー
地球の無限
アンカーを
守っている
ヤッピ族だよ

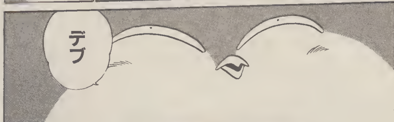

チャンチャン♪
ルンルン♪
フフフーンフン♪
ふきふき

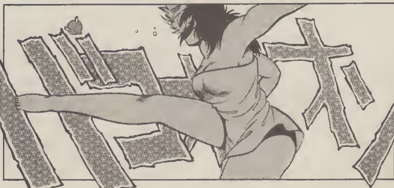

ありゃ

ちょっと止まっちゃったわよー
何してんのさー!!
グヘ～～

あかんも～～あかん……
やってられへんでほんまに～～

モーター
直ってからで
えーやんか〜
何
いってんのさ！
ただでさえ
朝シャンも
できないのに
一日
二度は
シャワー浴びなきゃ
地球に
帰ったら
すぐ
デートだもんねー
デート〜〜〜？
そう!!
大本命
バスケ部の
守山先輩♡
にま〜〜〜っ
それにキープ男の
奥瀬君でしょ♡
送り迎え専門の
相沢君♡
貢がせ屋の
佐藤君
もいるのよねー♡
どんな時でも
自分のペースを
崩さん
やっちゃな〜〜


あら……
なによ
あんた
じーっと
見ちゃってさ
このスケベ!!
……
それとも
なにかな
あたしが
美しすぎて
見とれて
たのかな――


デブ



あ…

わーっ
ポポ
しっかりせい!!

あいかわらず
だな
ここは

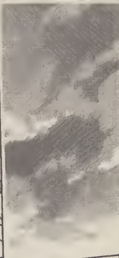
あんた
あの時の
女盗賊!



あ――!!

バルター
将軍!?

ぬう…



そりゃ ひでえもんだぜ 都はよ

やはり 生存者は どーしてる

一部 町の復興作業に 加わってるけど まあ手がつけられん 状態だな

うーむ……

軍は なんの説明も 市民に していないのか?

するわけ ねーだろ どう説明 するんだよ

コポ コポ

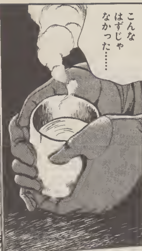
あのー 将軍 お茶が 入りましたよ

将軍 お茶が……

うるせえ いらねえよ!!

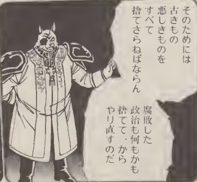
うるるる…

あ… ス…スマン もらいます


こんなはずじゃなかった……

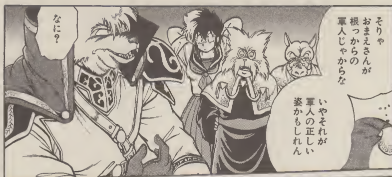

は？
スラフレーゼ全土に渡ってこれほどの被害がでるなんて思わなかった……

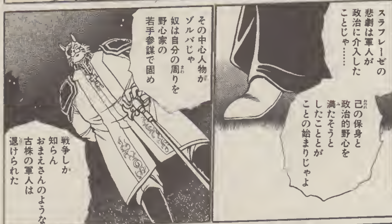

いいかバルター我々は新しい世界を造るのだ！
産業は活気を取りもどし政治的にも経済的にもなんら停滞のない活力に満ちあふれた世界をだ！

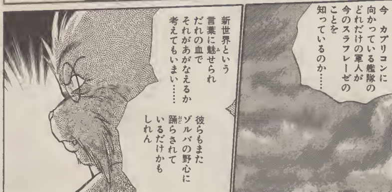

そのためには古きもの悪しきものをすべて捨てさらねばならん
腐敗した政治も何もかも捨てて・からやり直すのだ


わしは必ずこのスラフレーゼを新しい世界に導く！

古きものを
捨てるということが
あの破壊しつくした
都のことを
いうのなら……
いったい
ゾルバ卿の
いう新世界とは
どんな世界
なんだ……
わからん！
わからん！
わからん！
ゾルバ卿は
瓦礫の山の上に
何を造ろうってんだ
クソー
俺には
わからん……


そりゃ おまえさんが 根っからの 軍人じゃからな
なに?
いやそれが 軍人の正しい 姿かもしれん
…


スラフレーゼの 悲劇は軍人が 政治に介入した ことじゃ……
己の保身と 政治的野心を 満たそうと したことが ことの始まりじゃよ
その中心人物が ゾルバじゃ 奴は自分の周りを 野心家の 若手参謀で固め
戦争しか 知らん おまえさんのような 古株の軍人は 退けられた


今 カプリコンに 向かっている艦隊の どれだけの軍人が 今のスラフレーゼの ことを 知っているのか……
新世界という 言葉に魅せられ だれの血で それがあがなえるか 考えてもいまい……
彼らもまた ゾルバの野心に 踊らされて いるだけかも しれん


…………


恥しいことだが当たってるよ…
俺たちは新世界の夢をみてたんだ……
だが今頃気付いても手遅れだ


我々に力を貸してくれんか将軍!
どうする気だ今更何をしたってムダなことだぞ


いやわしらはだれ一人手遅れとは思っておらん…
ゾルバの狂った新世界とやらを阻止するつもりじゃ!


本気か……!?

ゴゴゴゴゴゴ

な…なんじゃ

ま…また地震!?

ズ

うわあっ!!

ややっ
いかん
通信機が!!

みんな
通信機を
守るんじゃ

おいっ
こら二人とも
腰ぬかしてる
場合かよ!!

ひえ〜

わわわわっ!!

あかん
つぶれる〜〜っ!!





ゴゴゴゴゴゴゴゴ




VOWAAMmm


ズズズズズズ

今度は
な…なにが
起こるのよ〜〜〜

大気の中の
エネルギーの脈動じゃ…!!
エネルギーの嵐じゃ!!

無限アンカーは
まだ安定
していないのか……!?

なんだ…
また地震か?
でかいぞ

まあ
ここは
地下四〇〇〇
だから……

じゃあ
この警報は
なんだ!?



だ…だめだ ここからじゃ 制御不能だ!!

緊急停止 しなきゃ!! 司令部に 許可を!!

ゾルバ卿を たのむ!! 大至急だ!!

閣下! 無限アンカー 制御室から 連絡が!

こっちに 回せ

いったいなんだ!? さっきから震動が 止まらんぞ どうしたのだ!?

アンカーが 暴走して います! 防ぐ手だてが ありません!!

暴走 だと?

アンカーを 停止させないと 危険です!!

ならん!!

だ…だめだ ここからじゃ 制御不能だ!!

緊急停止しなきゃ!! 司令部に許可を!!

ゾルバ卿をたのむ!! 大至急だ!!

閣下! 無限アンカー制御室から連絡が!

こっちに回せ

いったいなんだ!? さっきから震動が止まらんぞ どうしたのだ!?

アンカーが暴走しています! 防ぐ手だてがありません!!

暴走だと?

アンカーを停止させないと危険です!!

ならん!!

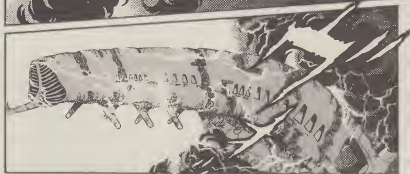
しかし……!!
ぜったいに止めてはならん
全力を挙げて暴走を鎮静化させるのだ
無能のかどで銃殺されたいか!!
閣下……!
案ずることはない!
ちょっとしたトラブルだ
なにをしておる持ち場にもどらんか!!
はっ!!
くそうっ……!
予想よりかなり早いな……
だがわしは必ずカプリコンを手にしてやろ・いや　もう手にしたのも同然なのだ……!!

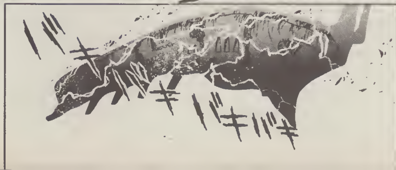

なんだ……
大気の様子が変だぞ

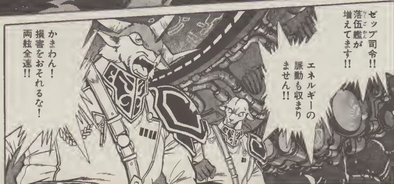

まだ二つの星のあいだが安定していないのだ
まあいい時間稼ぎにはなる


さて……事情はだいたいわかった…
君がディフェンダーの使命を果してくれたことも感謝している
使命だなんて……

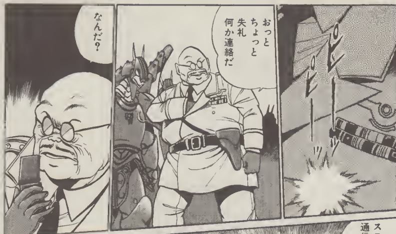

俺…無限アンカーが動き出すのを止められなかったし…
地球もスラフレーゼもメチャクチャになっちゃって……
でもタクは一生懸命やったんだよ!!
いや…責める気などない我々とてなす術なく見守るしかなかったのだ
面目ないよ
今我々に残されている道はゾルバとやらの地球侵攻を阻止することだよ
幸いここには多くの仲間がそろった
地球のヤッピ族も各地で集結している翼を失くした我々だが戦意は衰えていない
ゾルバめ!今に見てろ!!

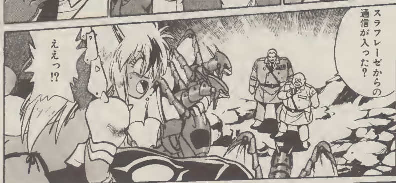



バキ
バキ
バキバキ


ゼップ司令!!
落伍艦が増えてます!!
エネルギーの脈動も収まりません!!
かまわん! 損害をおそれるな! 両舷全速!!

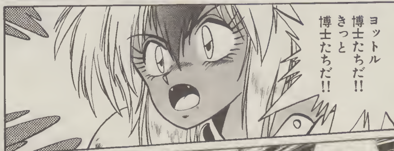



ピピーーッ
ピピーーッ
おっと
ちょっと
失礼
何か連絡だ
なんだ?


スラフレーゼからの
通信が入った?
ええっ!?


音声・映像とも
不鮮明ですが
まちがいなく
スラフレーゼから
です!
ただ
現在通信状態が
よくなくって……
この
大気の様子じゃ
無理もなかろう……
艦隊は
どこにいる!?





事は急を要している!

すぐ我々の司令部へきてくれたまえ!!

いよいよだ!!

エネルギー上昇率
許容レベル内いっぱい
塔内温度八〇〇
さらに上昇中！

圧力極大
プラス二三〇〇
震動も
ひどくなって
いる！

ゴゴゴゴゴ

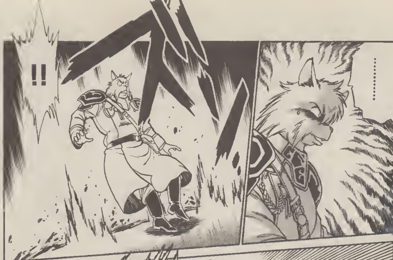
ゴゴゴ
ゴゴ

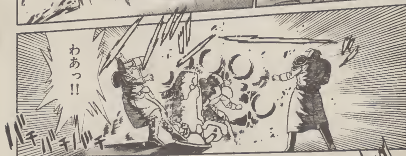
ACT23
運命の星


司令！
ここからでは
もう無限アンカーを
制御できません！
非常停止を!!

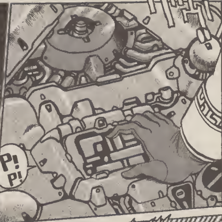

それは
できん……
ゾルバ閣下よりの
厳命だ！


しかし
このままでは
爆発も
時間の問題
です！
司令!!


!!
ズ
…………


わあっ!!
バチバチバチ


や…
やむを
えんな……
よし!
無限アンカーを
非常停止させる!
六時間で
完全停止
できるように……
君たちはここから
退出したまえ!!


P!
P!


ゴクッ




司令!!


その装置から
手を離しなさい

な…なんだ
きさま
たちは…!!

職場放棄は
困りますな

今から
ここの指揮は
我々が取ります

さあ
早く部署に
もどって
事態を収拾して
ください

お…おまえたち…
この状況が
わからんのか!!

アンカーが爆発
するかも
しれんのだぞ!!







ゲイル! ゼップの 艦隊はどこだ

はっ 第七作戦区を 通過

損害は あるものの まもなく 到着します!

カプリコンに 着きしだい ヤッピ族に 制圧されている 無限アンカー 周辺を掃討 させろ!

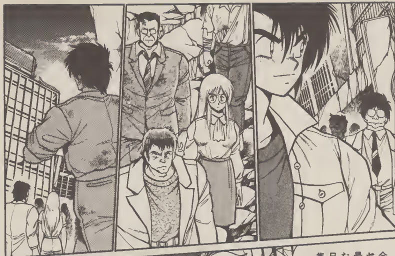
はっ!

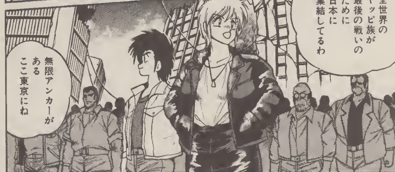

いよいよだな……!!

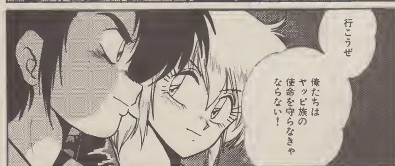


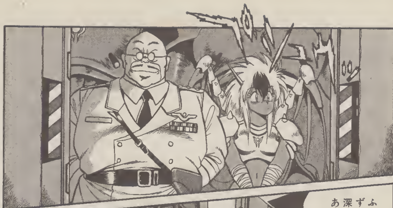
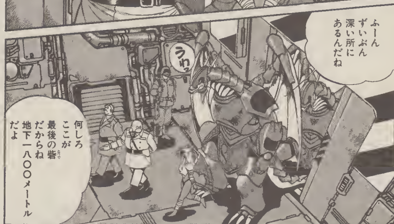
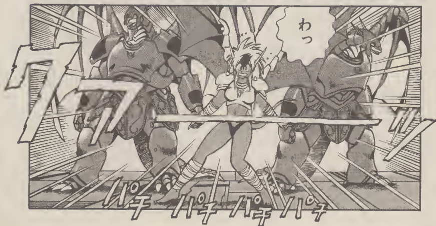

!!
君も
ヤッピ族か?
ええ!


俺もだ
他の
仲間も
集まる
ころよ




全世界のヤッピ族が最後の戦いのために日本に集結してるわ
無限アンカーがあるここ東京にね


行こうぜ
俺たちはヤッピ族の使命を守らなきゃならない！



ふーん
ずいぶん
深い所に
あるんだね
うわっ
何しろ
ここが
最後の砦
だからね
地下一八〇〇メートル
だよ

わっ
パチ
パチ
パチ
パチ



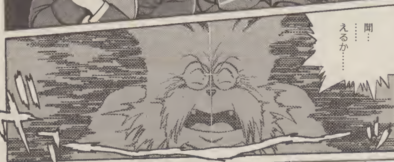
兄弟星の同志の歓迎の拍手だよ

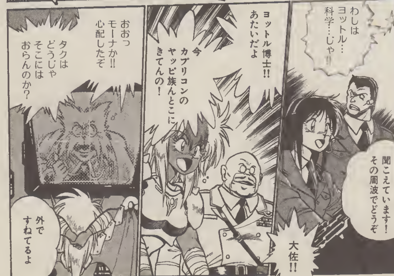
我々は君たちと手を組める日を心から待っていた

うひゃーっなんだか照れちゃうなーっ!!

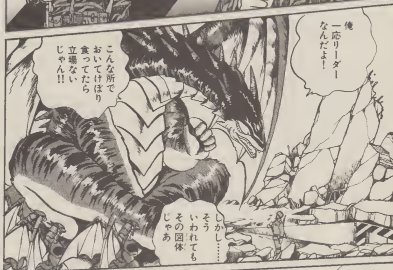
どうだね 通信は 回復したかね
大気の状態が だいぶんよくなって きました
ただ向こうの 通信機の出力が 弱いもので……
こっちの エネルギーも 底をついてます 通信は手短に お願いします
うむ
ねえ ねえ 映んないの!!
故障してんなら たたけば 直るって
わ――っ やめて ください!!
は…初めまして スラフレーゼの 同志
コーヒー いかがですか
なんだ こりゃ?
カプリコンの 食べものらしいな
ふーん……
ポイッ

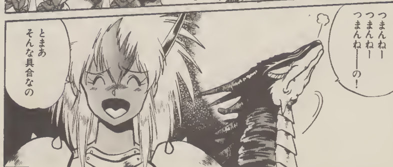

あんまし
うまか
ねえな
バリバリ
ボリ
ボリ
そーだな
ひ〜〜ん!!

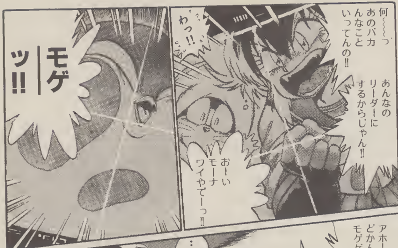

聞……
……
えるか……

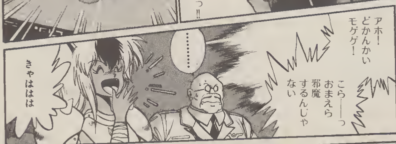

わしは
ヨットル…
科学…じゃ!!
聞こえています!
その周波でどうぞ
大佐!!
ヨットル博士!!
あたいだよ
今
カプリコンの
ヤッピ族んとこに
きてんの!
おおっ
モーナか!!
心配したぞ
タクは
どうじゃ
そこには
おらんのか?
外で
すねてるよ

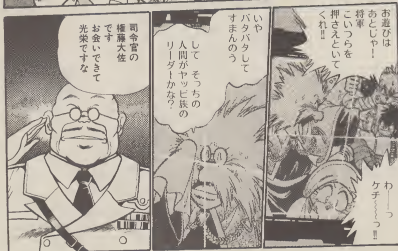

なんで
俺が
入っちゃ
だめなんだよ!!


俺
一応リーダー
なんだよ!
こんな所で
おいてけぼり
食ってたら
立場ない
じゃん!!
しかし……
そう
いわれても
その図体
じゃあ


つまんねー
つまんねー
つまんね――の!
とまあ
そんな具合なの

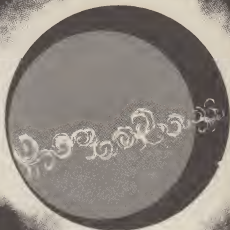

何〜〜っ
あのバカ
んなこと
いってんの!!
あんなの
リーダーに
するからじゃん!!
わっ!!
おーい
モーナ
ワイやでーっ!!
モゲッ!!


アホ!
どかんかい
モゲゲ!
こら——っ
おまえら
邪魔
するんじゃ
ない
……
きゃははは

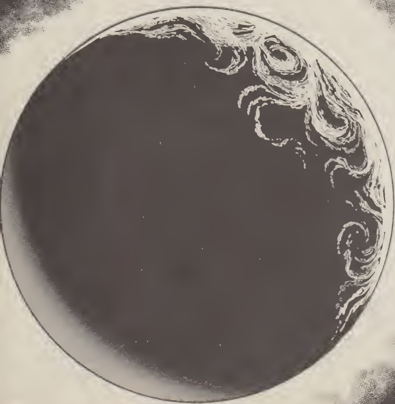

お遊びは
あとじゃ!
将軍
こいつらを
押さえといて
くれ!!
わ——っ
ケチ〜〜っ!!
いや
バタバタして
すまんのう
して そっちの
人間がヤッピ族の
リーダーかな?
司令官の
権藤大佐
です
お会いできて
光栄ですな

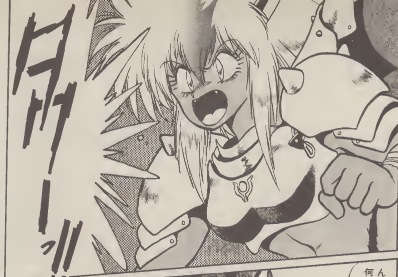
ゴンドーさん
もはや一刻の
猶予も
なりませんぞ!!
と申しますと?
ゾルバの
無限アンカーは
明らかに
欠陥品なんじゃ
どういうことです
それは?
ゾルバは
かなり
無理をしている
ようじゃ
エネルギーの
消費量が
異常じゃ
無限アンカーは
奴らにとって
手に負えん
代物らしい
とにかく
こっちで観測した
データを送る!
分析を
お願いしたい
なにせ
こっちは
設備がなくて
どーにもならん
しかし
アンカーが
欠陥品と
いうことに
なると
どーいう事態が
考えられますかな

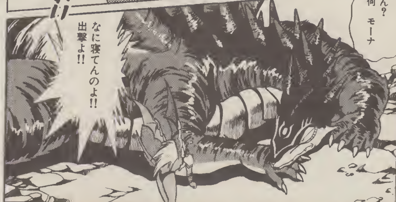
破滅じゃ!! 二つの兄弟星の重力バランスが崩れお互い砕けちる!
先史文明の時と同じ運命にある!!
爆発しちゃうの!!
ガレッティが恐れていた真の天変地異とはこのことだったんじゃよ
しかし……なぜゾルバはそんな危険を冒してまで地球を……
二つの星の運命を知っておるのじゃろう……

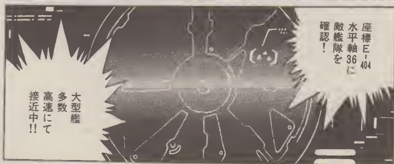

カプリコンと
スラフレーゼは
今回の最接近の
あと
おそらく二度と
出会うことは
ないんじゃ
次元の壁を通して
二重惑星の
関係だった
二つの星は
無限アンカーの
能力低下によって
その関係を絶たれ
ようとしておる……

無限アンカーを
手に入れ
それを改造した
ゾルバにとって
これが最後の
チャンスなんじゃ




ダダーーッ!!


ん? 何 モーナ
なに寝てんのよ!! 出撃よ!!


座標E-404 水平軸36に 敵艦隊を 確認!
大型艦 多数 高速にて 接近中!!


よーーし!!
行くぜ!!
ゾルバの野郎に
一泡ふかせて
やる!!

タク！

おう
モーナ！
まかしとけよ

一隻も
通すもんかよ!!

その意気！
その意気!!

へっっ

こいつは
俺たちの
最後の戦いだ!!

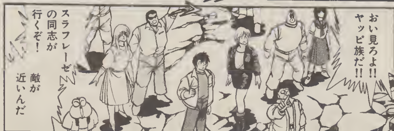
思う存分
暴れてやれ!!


ヒュリ








おい見ろよ!!
ヤッピ族だ!!
敵が近いんだ
スラフレーゼの同志が行くぞ!

よいか
モーナ！
艦隊を決して
地球に降り立た
せてはならん



アンカーが
効力を失えば
大気は乱れに乱れ

おそらく
艦隊をも
押しつぶす

そこまで
なんとか
持ちこたえて
ほしい

やれるか!?
やれるわよ!!
おじいちゃんの
敵……!
たくさんの
死んじゃった
人々の敵……

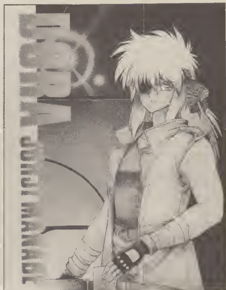



ゴウン ゴウン ゴウン ゴウン
◆カプリコン④おわり◆

＊「カプリコン④」は月刊ウィングス'89年7月号と、'89年9月号より'90年1月号まで連載された作品に加筆したものです。なお、「カプリコン」は現在ウィングスで連載中です。

真鍋譲治のコミックス

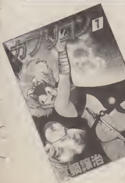
DORA
ドーラ



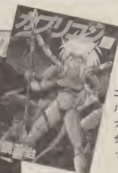
女海賊・カダフィにまた会える――Ｂ６判のコミックスに、形を変え、新装版で登場する、「ドーラ」。カダフィがふるさとの地球に帰る物語、単行本未収録の「ミュータント・トリップ」と、描きおろしコミック44ページを加えますますパワーアップした「ドーラ」！ 真鍋譲治の傑作短篇集は、君を待っている!!

定価490円（税込）

カプリコン①②③







二つの星に破滅を呼ぶゾルバの野望！ タク、モーナ、地球を助けて――全国的に大反響のSFコミック・絶賛発売中！

定価各490円（税込）